

講義コード	202014F
講義科目名称	衛生学・公衆衛生学【理学療法】
英文科目名称	Hygienics and Public Health Science
講義期間	前期
学科	適用ーリハビリテーション学科理学療法学(2025)
配当年	1
単位数	1
科目必選区分	必修
担当教員	鈴木 研太
曜日・時限	前期 金曜日 2時限 3 1 3教室
関連するディプロマポリシー	DP② DP③ DP⑤ DP⑥

授業概要	理学療法士においては、衛生学・公衆衛生学の知識を持ち、理学療法士の役割・機能や貢献できる内容について理解することが不可欠である。 医療従事者として知っておくべき、保健・医療・福祉の各分野に関わる衛生学・公衆衛生学の知識・技術について理解し、説明できるようになる。 健康問題の歴史から、衛生活動・公衆衛生活動、生命倫理、健康の測定、人口統計、疫学調査、感染症・疾病予防、環境・地域・母子・学校・産業・高齢者・精神の保健などの公衆衛生に関わる知識について説明できるようになることを目的とする。
学修の到達目標	衛生学・公衆衛生学の考え方や基本的な知識を身につける。 人々の健康の保持・増進、疾病の予防の方法について説明できる。 保健・医療・福祉分野における衛生活動・公衆衛生活動の概要を理解する。
予習・復習の内容およびそれに必要な時間	講義目的を理解し、あらかじめ教科書を読んでおくこと（30分）。 毎回の講義内容を見直し、配布資料、演習問題等を中心によく復習し、次の講義までに前回の講義の内容を必ず理解しておくこと（60分）。 本講義内容の修得には最低45時間以上の学修時間を要し、毎回1.5時間程度の予習・復習が必要で
成績評価の方法・基準	評価基準は、授業概要および授業計画に記載した内容の理解度、学修の到達目標の達成度による。 成績の評価は、定期試験（70%）、確認テスト・課題等（30%）を総合して行う。
試験・レポート等に対するフィードバックの方法	確認テスト等に対するフィードバック（正解の提示と解説）は講義中もしくはCoursePowerへの掲示にて行い、課題等に対するフィードバック（正解の提示と解説）および講義・試験・課題等に対する疑問点や質問に対する回答は講義後に対面・メール等での説明もしくはPortalサイト、CoursePowerへの掲示によって行う。

教科書					
No	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN
1.	『シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮	南江堂	2025	
2.					
3.					

参考図書					
No	書籍名	著者名	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					

教員からのメッセージ	配布プリント、板書、解説を中心に講義を行います。 内容の理解を確認するため、課題の提示・演習等を適宜行います。 本科目の内容は保健関連科目、専門科目に関連する基礎知識を含みます。 幅広い内容を扱うため、理解できない点はそのままだとせず、資料を調べたり、教員に質問するなどし、必ず理解しておくようにしてください。				
実務経験の内容及び経験に関連する授業内容	実務経験の有無：				
その他					
参考URL	表示名：				
	URL：				
授業方式	オンライン授業	対面授業		併用	
		○			

授業計画	回数	テーマ	内容
	1	公衆衛生学序論 公衆衛生の意義と歴史	衛生とは何か、公衆衛生学とは、健康問題の歴史、公衆衛生の歴史について説明できるようになる。
	2	健康とは？健康増進に果たす公衆衛生活動の役割	健康とは何か、健康の定義、病気とは何か、生活と健康、プライマリヘルスケア、公衆衛生活動を知り、健康寿命の延伸のための公衆衛生学の役割を説明できるようになる。
	3	保健医療福祉の倫理	道徳と倫理、生命倫理、医の倫理、ターミナルケアについて説明できるようになる。
	4	健康の測定と健康指標 我が国の健康レベルの現状	健康指標、死亡率、年齢調整死亡率、生命表、死因の動向を説明できるようになる。
	5	人口統計	わが国の人口静態統計および人口動態統計を理解し、わが国の今後の問題点などを説明できるようになるとともに、世界の人口の動向などについても説明できるようになる。
	6	疫学の基礎	疫学とは何か、疫学の歴史、疫学調査について理解し、疫学的な手法が昔から利用され、感染症の原因究明、防止に役立ってきたこと、近年では生活習慣病などと人間活動との因果関係の解明等に利用されていることを説明できるようになる。
	7	疫学の方法	疾病の分類、疫学研究、疫学的因果関係、スクリーニングについて理解し、それらの特徴について説明できるようにし、オッズ比、相対危険、寄与危険の計算をできるようになる。
	8	疾病予防と健康管理 感染症の発生メカニズムと対策	感染症成立の3要素と感染症予防対策、感染症法、検疫法、食中毒について説明できるようになる。
	9	主な感染症の原因と予防	性感染症、AIDS、結核、予防接種、院内感染、スタンダードプリコーションについて理解し、感染経路別予防策を説明できるようになる。
	10	主な非感染症（生活習慣病）の動向と予防	予防医学、生活習慣病について理解し、悪性新生物・心疾患・脳血管疾患など生活習慣が発症に関与すること、生活習慣病の内容及び最近の動向を説明できるようになる。
	11	健康管理と健康増進	健康管理、健康増進、疾病予防、ソーシャルキャピタルについて説明できるようになる。ライフスタイルに起因する生活習慣病のリスクファクターをコントロールする一次予防を重視した国民健康づくり対策が有効であることを説明できるようになる。
	12	地域保健・母子保健・学校保健	地域社会・行政と地域保健活動、健康都市、母子保健の水準・課題・活動、子どもの健康状況、学校保健について説明できるようになる。
	13	産業保健・高齢者保健・精神保健	労働災害、職業病、職場における健康増進、母性保護措置、高齢者の生活と健康、介護保険、介護予防、精神の健康とは何か、精神障害の現状、精神保健福祉活動について説明できるようになる。
	14	環境保健（１）	オゾン層の破壊、地球温暖化、公害、環境基本法について説明できるようになる。
	15	環境保健（２）	量－影響関係、量－反応関係、環境の評価、物理的環境要因、廃棄物、住まいの衛生について説明できるようになる。